

月報

19号

発行所

青丘文庫

発行★韓 哲 曦 編集★金 慶 浩

〒654 神戸市須磨区千歳町4丁目1-3

エバーグリーンビル5F

TEL (078) 734-5989

「下からの」歴史

鹿嶋 節子

今年のはじめだったか「ヒトラー政権下の日常生活」という本を読んだ。この本には「ナチスは市民をどう変えたか」という副題がついていて、ヒトラーが政権をとってから、平均的な市民の日常生活で何がかわり、人々がどう反応したかということが市民の日記や末端の役所や学校の記録とともに残されている。本の内容は少し散漫でそれはど面白くなかったが、この本に限らず、最近、特に西洋史等の分野で「下から歴史を書く」ということがよくいわれているようだ。

「下からの」歴史というのは、政府なり支配者の発表や報告や統計をもとにしていたりあるいは歴史の舞台の表にあらわれることとはばかり目が向いていた「上からの」歴史の見方に疑問を投げかけるところのあら

てきたらしい。

その「下から」というとき、重要視されるのは今まで目を見られなかった、極く私的な個人の日記とか手紙、一般的な事件の新聞記録や商売の取引の記録など、日常的な生活の記録のたぐいである。そういう本を公けにすることと目的にしないで書かれたものの中にこそ、その時代の本当の歴史の主役であったはずの庶民の姿があらわれているのである。そのように「下から」も歴史を見ないとひとつの時代を正確にとらえることは出来ないという考え方だ。

四月頃に中公文庫から「フランス革命下の一市民の日記」という3センチ位の厚さの本があったが、それがこの「下からの歴史」の一冊といえるのだろうか。

朝鮮史の世界について考えてみると、やはり「下からの歴史」の分野にはまだ関心が及んでいないだろう。在日朝鮮人史の研究においては聞き書きとか地元の役所や寺に残された記録を追っての地道な仕事が続けられているが、特に日帝時代の朝鮮史の研究では、支配者側と、それに抗して頑張った人々を交えていた人々の姿がどうしても抜けおちがちになっているのではないだろうか。

外國である日本が朝鮮史を勉強しているのだから、何もかもを過不足なく研究、紹介することもむずかしいだろうが、できるだけ色々な角度から歴史をみて、その時代を豊かに元加のてい加収ばなりなうと思ふ。

★ 研究報告要旨

◆ 朝鮮民族運動史研究(第五八回)例会(昭和九年16日)

報告者 鹿嶋節子氏

テーマ 一九四〇年前後の中国国内における朝鮮人

独立運動をめぐる状況と金元鳳の立場

一九三七年前後の日中戦争の激化は、中国国内とその活動の場としてきた朝鮮人運動家の立場にも大きな影響を与えた。

日中戦争のこの時期、中国の勝利が朝鮮の解放につながる

という共通認識のもと、朝鮮人運動家たちの間の戦線統一の

機運は、それまでにも増して高まっていく。また、中国側で

は、国共合作↓国共分裂と激動する国内状況の中、戦争後

の中国ということをも視野に入れて、朝鮮人の独立団体の活

動にどのようなテコ入れし、また共に叩いていくかが、検討

された。

このような時、金元鳳と民族革命党、朝鮮義勇隊は一九四〇年と前後して、それぞれで共闘することの出来なかった金九りの臨時政府グループと手を結んでいく。しかし、この過程は、「共闘」というよりむしろ臨時政府側に「とりこまれる」といえる状態であった。

元来、金元鳳は金九りのグループに比べて積極的に革新的な独立運動を行なっていた。それが、臨時政府とは名ばかりでひとつの独立運動団体にすぎなかったグループにとりこまれるようになったのは何故か、朝鮮義勇隊の勢力の減少をもたらした大きな原因である同志の中国共産党支配地域への移動の事情を知るため、ひとつの具体的な材料として昨年迎朝鮮族自治州で出された雑誌「天地」の中の見聞記「抗日の戦いにおける朝鮮義勇軍」を紹介した。また、金元鳳りが臨時政府側へ入っているのを得なかった外的な要因として、中国国民党が一九四〇年前後に朝鮮人独立運動家とどのように遇したかを見るため、中国国民党の「扶助朝鮮復興運動指導方針」が作成される過程を検討し、金元鳳りの位置を組織の内側と外側の両面から考えてみた。

◆や82日在日朝鮮人運動研究センター報告

外国人登録事務における

7月13日(日)

在日朝鮮人の国籍欄の記載について

金 英達氏

在日朝鮮人の外国人登録における国籍欄の記載を、「朝鮮」とするか「韓国」とするかについて事務当局の取扱いの変更を調べてみた。

この記載問題に関する事務取扱い上のポイントは次の大要である。

1. 何を表示しているのか(表示内容)

出身地表示説(地域名の表示)

国籍表示説(国家名の表示)

2. 地域名にせよ国家名にせよどんな用語(名称)を使うか

朝鮮・韓国、韓国・朝鮮、コリア、朝鮮民主主義人民共和国、朝鮮、大韓民国、韓国

3. 記載変更の自由について

画面的自由……「朝鮮」から「韓国」、「韓国」から

「朝鮮」のどちらの変更も自由に認める。

片面的自由……「朝鮮」から「韓国」への変更は認めるが、「韓国」から「朝鮮」への変更は認めない。

4. 「韓国」から「朝鮮」への書換えの処理権限の所在について

自治体処理方式

本省経同方式

5. 「朝鮮」から「韓国」への書換え申立てにおける添付書面について

韓国政府の国籍確認文書を要する

何ら要しない。

6. 事務処理方法について

九条方式(変更登録)

十条方式(登録の訂正)

これら大要のポイントの組合せの相違により、事務取扱いの推移と取扱い変更の通達を節目にして五つの時期に整理してみた。また本省の通達に違反して書換え事務をしている自治体(いわゆる田川方式の系譜をひく自治体)の事例もとりあげた。(その詳細を知りたい方は報告者までレジュメ等の資料を請求して下さい。)

新着図書案内

▲ 神村利宗 著

加藤玄智 著

東京 明治聖徳記念堂

会 元三、五

B6、五三二頁

▲ 坂本道寛 著 作品集(上・中・下)

土居晴久 編

高知市

立市民図書館

70.10、B5

▲ 朝鮮関係資料目録

アジア・アフリカ課 編

東京 国立

国会図書館

83.3、B5 ニニ四頁

▲ 現在の神社問題

花田俊彦 著 東京 興教書院

★ 次回案内

(一) 在日朝鮮人運動史研究(第四回)例会

日時 元六六年九月二十四日 午後二時

場所 青丘文庫

テーマ 諸外国における外国人公務員採用について

報告者 松田雄一 氏

(二) 朝鮮民族運動史研究(第五回)例会

日時 元六六年九月二十日 午後三時

場所 青丘文庫

テーマ 朝鮮民族運動史研究 三 号 発表論文に対する答

謝会(下の版は前者)

▲ 原田論文「暴徒考」

金藤論文「水野道樹」

金藤

▲ 論文「森川展昭」

飯沼論文「花田雄一」

▲ 掲載論文

▲ 「朝鮮民族運動史研究」正号が出版された。

▲ 山梨統督統獄多井と米穀取引所

飯沼三郎

▲ 朝鮮近代ナショナリズムの形成

朴殷植の大韓精神

▲ 朝鮮独立運動史上における一九〇一年一月

▲ 青丘文庫の開

▲ 歴史の意味を求め

金藤 著

▲ 一九三〇年の「南島雑誌」について

金森 著

▲ 民族運動史上の人物(連載三)

▲ 李相龍、柳子明、陸史

▲ 李源禄、鄭聖野、李仁、韓慎卿、金奎植、李鍾武

▲ 金俊淵、其の他研究会の記録

★ 訂正 「月報」18号 次回案内に「朝鮮民族運動史研究

(第八回)例会は第五九回の誤りでしたので訂正します

★ 青丘文庫は後転と延期しておりましたが、九月下旬後転

することになりましたので、九月十五日と十月十一日

で休館致します